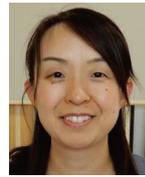


「電子黒板ならでは」の学びを共有、音質も評価

75型4K電子黒板で鮮明に提示

2019年度学校情報化優良校の認定を受けているつくば市立みどりの学園義務教育学校では、「21世紀型スキルの育成を目指す情報活用能力の一覧表」を策定してプログラミング教育やアクティブ・ラーニングなどに積極的に取り組んでいる。その支えの1つが、大型提示装置やデジタル教科書・教材などのICT環境だ。昨年度から7学級増となったこともあり、今年度は追加で特別支援学級に電子黒板を導入。さらに4K電子黒板「ブラビア」75型の活用効果も検証した。ブラビアを活用した音楽と理科の授業を取材した。



青柳教諭

旋律ができることがわかった「終わりにふさわしい音は限られるようだ」と話した。電子黒板で学びを共有したからこそその感想だ。

青柳教諭は「音楽は8・9年生になると、週1時間。効率よく学ぶには、デジタル教科書・教材と電子黒板は欠かせない。これまでピアノ、合唱、鑑賞中心であった音楽に様々な可能性を与えてくれるもの」と話す。

つくばみどりの学園義務教育学校

和音の旋律作りとアレンジに挑戦

8年1組は、音楽室で「和音の音を使って旋律をつくらう」に取り組んでいた。授業者は青柳可奈教諭。

「終わりの音」を何度か変更して再生、皆で聞き比べた。一音で変更するだけで、旋律の雰囲気が変わることができた。

次の時間は、この日作成した旋律を「アレンジ」する。アレンジには、拍子を変える、音を追加する、他の音にするなどいくつかの方法があるが、生徒はデジタル教科書の動画を視聴して、だいたいイメージをつかめたようだった。次の時間の意欲につなげた。

青柳教諭は「音楽は8・9年生になると、週1時間。効率よく学ぶには、デジタル教科書・教材と電子黒板は欠かせない。これまでピアノ、合唱、鑑賞中心であった音楽に様々な可能性を与えてくれるもの」と話す。

4K電子黒板「ブラビア」には音楽のデジタル教科書を提示。「和音」を聞いてその響きを全員で確認してから、和音に含まれる音を使って「4分の4拍子」の旋律をグループになって考えた。



電子黒板で試行錯誤を共有できる



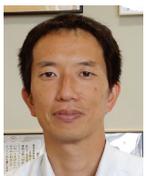
デジタル教科書で「創作」活動に取り組みやすくなった

4K電子黒板「ブラビア」については「電源を入れるとすぐにP/C画面が提示され、入力切替えが不要で驚いた」と話す。「教室のどこから見ても、見や

やすいので、学びを共有しやすい」

入力切替なしですぐに提示できる

4年4組では「季節ごとの生き物観察」の学習を行っていた。デジタル教材はNHK for schoolを活用。



前田教諭

デジタル教材の虫眼鏡を動かすと、カブトムシやヤゴ、ヘチマやツバメなどが森や畑などから見えてきた。

大きな異なった見えたようだ。

大きな異なった見えたようだ。

デジタル教材の虫眼鏡を動かすと、カブトムシやヤゴ、ヘチマやツバメなどが森や畑などから見えてきた。

大きな異なった見えたようだ。

大きな異なった見えたようだ。

大きな異なった見えたようだ。

大きな異なった見えたようだ。



75型の画面で鮮明な画像を提示

75型の画面で鮮明な画像を提示

児童は、大画面の電子黒板に拡大提示されたヤゴやメダカなどの成長過程に注目。4Kだと2K画像もアップスケールでき、迫力が増す。

前田邦明教諭は、「ブラビアは明るい教室でも反射が少なく、コンテンツが見やすい。本校には提示環境はほぼ全教室あるが、電子黒板は2教室につき1台程度で、使いたいときは相談して活用している。昨年まで中学校で理科を教えていたこともあり、国語や社会など様々な教科でもっと使うことができれば、直接画面を操作して注目をしながら説明できる、子供が書き込みながら発表するなども、電子黒板でなければできないことだ」と語った。